

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

事業所名: そら

公表:令和 5 年 3 月 14 日

対象職員数 7

回収数 7

割合 100 %

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7		十分な広さを保障するため、物件を選んでいる。	
	2	職員の配置数は適切である	7		常に基準以上である。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7		乳幼児から老人まで安心して過ごせるよう配慮している。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7		職員が目標に対して積極的に参画している。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7		常に意向を重視のうえ、できる範囲での改善に努めている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7		それ以外にも各家庭に配布している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		7		今後検討していきたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7		内部研修に力を入れている。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7		定期的に訪問や電話で課題を聴取し、職員で共有しながら計画に反映させている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7		簡便なツールを使用。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7		常にスタッフ会議で検討の上、立案している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		日々のルーティンワークの重視と屋外活動等を取り入れている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7		夏休みには、日ごろ体験できないびわ湖水泳を保障。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7		個別計画に基づく支援は集団遊びと個別課題の提供を通して行っている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7		毎日打ち合わせを行い、細やかに担当を決めている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7		終了後の打ち合わせと、振り返りを行い、参加できなかった職員には連絡している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7		職員一人一人が記録を徹底している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7		職員間で討議をしながら必要に応じて見直しをしている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	7		バランスよく活動を保障している。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7		必ず児童発達支援管理責任者が参画。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7		各学校に出向き、情報共有を行っている、送迎時には日々の様子を共有している。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている				該当者いない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	7		なるべく積極的に連絡を取っている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している				該当者いない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7		専門機関の助言は受けている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある				コロナ禍においては感染予防の徹底に努めたため、あえて機会を持たなかった。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	7		努力している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		日常の様子を写メで送信したり、ラインを通してタイムリーに伝え合っている。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	7		必要のあるときは事業所にも来ていただきタイムリーな支援を行っている。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7		丁寧に分かりやすく行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7		保護者様とのコミュニケーションを常にとりながら、必要な時に助言できるような関係づくりを心がけている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7		今年度は、ようやく保護者様交流会をも開催できた。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7		普段から本音を出しやすい関係を構築し苦情として申し出があった場合は迅速に対応することを心がけている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7		会報は出せていないが、毎月の利用表に掲載している。	
	35	個人情報に十分注意している	7		職員間で注意をし合っている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7		細やかな内容で繋がりを持っている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている				コロナ禍のため地域交流の機会は持たなかった。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7	配布や掲示により周知している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	年2回行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	委員会を設け、研修を徹底している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7	該当者があるときは、手続きを踏んで記録に残している。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている			該当者いない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	ヒヤリハットの各報告を集めて共有している。	